横浜市立東市ヶ尾小学校だより

令和4年6月30日　7月号

# まなびや　東市ヶ尾

## 思いやりの心

副校長　　山本 慶子

「おたまじゃくしにあしがはえたよ！」１年生の男の子が目を輝かせ、私に伝えてくれました。ある池からおたまじゃくしを持って帰ってきていたのです。その子は毎朝、私におたまじゃくしの様子を伝えてくれていました。ついにあしが生えたと嬉しそうに報告してくれたのです。「じゃあ、いつになったらかえるになるかな？」その男の子と担任と私でかえるになる誕生日を予想しました。しばらくすると「ついにカエルになった！」とその子はいつもより大きな声で「おはよう」のあいさつよりも先に報告してくれました。かえるになる誕生日予想は3人ともはずれてしまいましたが、そんなことはおかまいなしです。それよりもかえるになった喜びの方が大きく、はずんだ声で話してくれました。「そのかえるはどうするの？」と問いかけると、その子は「もといた池に帰すんだ。」と言ったのです。大切に育て、カエルになるのを毎日待っていたのにも関わらず、もといたところへ帰すというその子の言葉を聞いてとてもあたたかい気持ちになりました。「そうだね、〇〇くんと同じで家族が待っているものね。」というと「うん！」と大きくうなずきました。

強い雨が降った翌朝、校庭に咲いていたあじさいの花がいくつか雨に打たれて落ちてしまっていました。昨日まできれいに咲いていたのに、よほど強い雨が夜に降ったのでしょう。登校してきた１年生の女の子が、「あっ、あじさいの花だ。」と言って咲いていたあじさいではなく、地面に落ちていた花をしゃがんで拾い上げました。すると「あじさいお助けだいさくせ～ん！」と言って落ちていたたくさんのあじさい花を一つひとつ丁寧に拾っていました。その中で「これ先生にあげる！」と言って、2つほどきれいなあじさいの花を私にもくれました。両手いっぱいになったあじさいの花を自分のハンカチで優しく包み、「せんせ～い、こんなにいっぱいあじさいあったんだよ！」と嬉しそうに担任に両手を広げて見せていました。雨に打たれて元気がなくなっていたあじさいの花が元気を取り戻したかのように、花を広げていたような気がしました。落ちてしまっていた花にも心を配れる姿にやさしい気持ちになりました。

６年生は、１年生から日光修学旅行にいく際に「気を付けていってきてね。」と猿（見ざる・聞かざる・言わざるの三猿）の折り紙を一人ひとりプレゼントされたそうです。先日、６年生の教室にお邪魔したときに「これ、１年生からもらったんだ。」と自分のファイルから大切に取り出した折り紙の猿をとても嬉しそうに見せてくれました。プレゼントをした１年生の気持ちもすばらしいですが、それを１か月、大切に持っている6年生の姿にうれしくなったひと時でした。

相手の気持ちを大事にして行動する＝思いやりの心をもっている子どもたち。相手が小さな生き物であったり、落ちてしまった花だったり、小さな手で一生懸命折ってくれた１年生の気持ちだったり・・・様々な「相手の気持ち」だと思うのですが、それを大事にできる子どもたちから、「思いやりの心」を教わった気がしました。これからもたくさんの思いやりを見つけていきたいと思います。

７月もどうぞよろしくお願いいたします。